

北里大学病院を受診された患者さん・ご家族の方へ

当院では下記の臨床研究を行っています。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で診療情報等を研究目的に利用または提供されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にお申し出ください。

研究課題名 (整理番号)	フルルビプロフェンの帝王切開術中の嘔気・嘔吐予防効果に関する 後方視的コホート研究 (B25-101)
当院の研究責任者 (所属・職位)	医学部麻酔科学 准教授 日向俊輔
他の研究機関 および 各施設の研究責任者	東京科学大学病院 高橋京助
本研究の概要・背景・目的	<p>帝王切開の手術を受ける際、手術の途中で気持ち悪くなったり、実際に吐いてしまったりすることがあります。その際にはすみやかに吐き気止めの薬を投与するなど治療をしますが、吐き気の原因の1つとして、手術操作に伴ってプロスタサイクリンという物質が体から放出されることが関連している可能性があります。実際、帝王切開ではない他の全身麻酔の手術の際、手術操作に伴ってプロスタサイクリンという物質が体から放出されることが知られており、これを腸間膜牽引症候群と呼びます。そして、腸間膜牽引症候群は非ステロイド性抗炎症薬 (NSAIDs) という薬で予防および治療できることが知られています。しかし、帝王切開術の間に起こるプロスタサイクリンという物質の放出も NSAIDs という薬で予防ができるかどうかについては未だにわかっていません。</p> <p>ここで、我々は帝王切開の手術の途中で患者さんが気持ち悪くなったり、吐いてしまったりする理由が、全身麻酔のときにおこる腸間膜牽引症候群に似た仕組み、つまりプロスタサイクリンが原因であると考え、NSAIDs でそれを予防できるのではないかと考えています。</p> <p>今回、当院で帝王切開の手術を受けた患者さんを対象として診療記録を調べ、フルルビプロフェンという種類の NSAIDs を手術中に使用するタイミングによって、手術中の吐き気や嘔吐の発生率に差があるか、その関連を調査したいと考えています。</p>
調査データ 該当期間	2021年10月1日から2025年9月30日までの情報を調査対象とします。
対象となる患者さん	上記期間内に分娩目的で当院に入院され帝王切開術を受けられた方
研究の方法 (使用する試料等)	<p>利用する情報</p> <p>2021年10月1日から2025年9月30日までの電子カルテに記載のある診療記録、検査データを利用します。</p>
試料・情報の 他の研究機関への 提供および提供方法	<p>提供先の機関および研究責任者名：東京科学大学病院 高橋京助</p> <p>診療記録および検査データは当院でのみ利用します。当院でデータを解析した結果について、他の研究機関へ提供します。</p> <p>データの提供は、パスワード・暗号化処理を行った上で電子的配信により実施します。</p> <p>提供元機関の名称及び機関長の氏名：北里大学病院・病院長 山岡邦宏</p>
利用又は提供を開始 する予定日	利用又は提供開始予定日： 研究機関の長の許可日から

個人情報取り扱い	<p>利用する情報から氏名や住所等の患者さんを直接特定できる個人情報は削除致します。また、研究成果は学会等で発表を予定していますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。</p>
本研究の資金源 (利益相反)	<p>本研究の遂行のための費用は、麻酔科学一般研究費を使用します。研究に関する利益相反は、北里大学利益相反委員会で審査を受け、適切に管理されます。</p>
お問い合わせ先	<p>本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。</p> <p>ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申し出下さい。</p> <p>また、試料・情報が当該研究に用いられることについて、患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究の対象と致しませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。</p> <p>ただし、すでにこの研究の結果が論文などで公表されていた場合には提供していただいた試料・情報に基づくデータを結果から取り除くことができない場合がありますが、公表される結果には特定の個人を識別することができる情報は含まれません。</p> <p>照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先： 所属・職位：医学部麻酔科学・准教授 担当者：日向俊輔（ヒュウガシュンスケ） 電 話：042-778-8606</p>
備 考	